

中音研ニュース

40号

奈良県中学校音楽教育研究会

H28.9. 発行広報部



去る6月10日(金)奈良市立春日中学校において、本年度の奈良県中学校音楽教育研究会総会、および研究授業が行われました。研究授業は、桐山智美先生による3年生を対象にした、表現領域でした。「曲の情景や歌詞を味わい、工夫して表現しよう」という題材名で「花」を教材にされました。

常に生徒たちとのコミュニケーションをとりながら、歌詞の意味や発音の仕方などにこだわった授業でした。最後は、先生方も交えて、「花」の大合唱で終わりました。

その後の研究協議では、先生方の意見交換のあと、奈良県教育委員会学校教育課指導主事の越尾直美先生による、ご指導、ご助言をいただきました。昨今よく聞かれる「アクティブラーニング」という言葉ですが、「生徒が何ができるようになるのか」教師がしっかり見定め、生徒が主体性を持って活動し、学びを深めていくことの重要性をお話いただきました。

午後からは「オペラの楽しみ」と題して、米田哲二先生のオペラにまつわるお話で進めていただきながら、コンサート形式でアリアや二重唱の数々を堪能しました。米田先生をはじめ、ご出演いただいた馬場清孝先生(テノール)、泉貴子先生(ソプラノ)、萬田一樹先生(バリトン)、柳るみ先生(ピアニスト)、熱いステージをご披露いただきまして、本当にありがとうございました。



先生方の感想♪

〈研究授業について〉

言語活動を取り入れ、それを音楽表現に生かす授業の構成がとても参考になりました。私の勤務している学校は、生徒数が少なく、歌の授業のときに、声を出すことに日々難しさを感じているのですが、「思いきって伴奏を外す」「朗読や群読など音をつけずに歌詞を読む」「三角座りをして下を向いて出来るだけ大きな声で歌って、その後姿勢を正して歌う」などの方法を授業で実際に取り入れていきたいと思いました。
(月ヶ瀬中学校 藤原 沙紀)

先生の話し方が明瞭で、後ろまでしっかりと聞こえていました。授業の流れがスムーズで、さすがだなと思いました。生徒に投げかける言葉がけが良かったです。自分自身の授業のやり方、生徒への言葉がけなど、様々なことに気付かせてもらえる機会となりました。まだまだできていない自分に落ち込みもしましたが、まわりの先生方から助言をいただきながら努力します。また、新しい出会いがあったことに感謝します。
(都跡中学校 本條 博子)

歌唱の授業は、どのように表現を深めていけば良いのか、且つ生徒が飽きないように進めるためにはどうしたら良いのか、いつも悩みます。桐山先生は、生徒からとても上手く考えを引き出しておられ、それをもとに全員で表現を深めるために、見本となる歌声を聴かせたり、言葉でわかりやすく伝えたり、私自身、こんな授業を受けてみたかったなと思いました。なかなか満足いく授業ができないので、たくさん真似させていただき、自分の授業の質を高めたいです。桐山先生、本当にありがとうございました。
(飛鳥中学校 植田 千尋)

桐山先生のきめ細やかな言葉がけが、音楽の先生としても学級担任としても素晴らしいなと感じました。毎年、奈良市の合同音楽会で、春日中の生徒さんの力強い歌声を聴かせてもらったので、今日はその歌声の秘密をのぞけるかな！？と楽しみにして来ました。やや照れながらも1時間頑張り抜かれた生徒さんと先生のお姿にじんわりと暖かい気持ちになりました。ありがとうございました。
(登美ヶ丘中学校 戸室 綾佳)

声を出してくれない子どもたちの様子を見て、同じだと思いました。歌詞の内容を丁寧にご指導されていたので私も歌詞を奥深く勉強しないといかないと反省をしました。桐山先生のパワフルな授業に刺激をもらい、よい時間を過ごせたことに感謝しています。
(平城東中学校 井上 牧)

声が出にくいのであれば、発声練習を工夫するなどしてもいいかなと思いました。
(斑鳩中学校 土田尚登先生)

チャイム前のリコーダー準備の時や、リコーダーが終わってから片付けて教科書を開くまでの時に、次にする曲の伴奏を弾かれていたのがとても素敵でした。リコーダーにおいても、歌においても基礎がきちんと行われているのが伝わり、とても勉強になりました。また、どのように歌うのかを一人一人自分の言葉で考えさせ、発表し板書することで表現が豊かになるのでとても素敵な授業だと感じました。

(野原中学校 中南 恵利)

〈研修会に参加して〉

実際に生の演奏を聴けたのが、表情やその場面の状況などが分かったのが良かったです。研修会であることを忘れてうっとりしてしまいました。普段の授業で生徒に音楽を聴かせるときでも、音源にこだわっていきたいです。
(月ヶ瀬中学校 藤原 沙紀)

生の歌声、とても素敵でした。オペラを見ることはとても好きですが、社会人になってからは遠ざかっていたので、すごく良い時間でした。
いろんな知識を教えていただいたので、生徒に返していけるよう頑張っていきたいと思います。
(飛鳥中学校 植田 千尋)

プロの歌を舞台上で聴くことはあっても教室で聴くことは初めてでした。距離が近い分、心の距離も近く感じ、子どもたちにも生演奏を聴かせてあげたいと思いました。
(平城東中学校 井上 牧)

講師のため、まだまだ経験が浅く、研究協議等の時間で多くの先輩方のご意見が聞けて、とても勉強になりました。オペラ講演は、間近でアリアを聴ける貴重な体験でした。授業で鑑賞をする際も、CDのみでなく、DVDを見せるなど、なるべく本物に近い状態を伝えたいと思いました。
(野原中学校 中南 恵利)



〈日頃、思っておられることなど〉

・生徒の実態に応じた授業作りの難しさに悩む日々です。 (都跡中学校 本條 博子)

・授業時数が少ないこともあり、特に鑑賞の授業が、情けないのですが、いつも知識の詰め込みのようになってしまいます。短い時間で、なんとか感性を育てられる取り組みができないかなと思います。 (飛鳥中学校 植田 千尋)

・小さな教室の中で、たった1時間の授業で、心揺さぶられる瞬間が1年間に何度かあります。そんな時、この仕事の素晴らしさを実感します。今後もそういう時間が生徒と、(時には教師同士でも)味わえるように研修を重ねようと改めて思えた1日でした。 (登美ヶ丘中学校 戸室 綾佳)

・音楽教師が1校に1人という厳しい現状なので、気軽に他校の先生方の授業を見学できれば有り難いと常に思っています。 (平城東中学校 井上牧)

・日々、多忙な中で自分の勉強をすることは難しいことですが、月に一度、2ヶ月に一度は、コンサートに足を運ぶ必要を感じます。私が教員になった時、(実は私、県立高校教諭として採用されました)高音研の先輩からよく言われましたが、時間がない、お金がないと全くといっていいほど行っていませんでした。しかし、十年ほど前から息子が所属するオーケストラの定期公演(年11回)や他のコンサートに足を運ぶようになりました。授業や部活動の中で生徒たちに還元することができることを多く得ることができています。休みなしで部活をするくらいなら、一月に一度くらい、生徒もゆっくりさせてやったら良いのでは、と考えます。できない理由を探すのではなく、足を運びましょう!!「今ですよ!!」 (天理中学校 米田 道治)

♪第23回奈良県鑑賞教育研修会、第9回近畿夏の勉強会♪

去る7月21日(木)、今年度の夏ゼミは「日本の伝統芸能についての実践研修」と題し、奈良県教育委員会事務局学校教育課指導主事の越尾直美先生をお招きして、王寺町やわらぎ会館で行われました。

午前中は越尾先生に「歌舞伎」扱う上でのポイントについてご講義いただき、生徒が興味をもつような提示の仕方などさまざまな方法を提案くださいました。教材との出会い方は主体的な学習に取り組む態度につながるの、ソフト選びや視聴する場面の設定など工夫して、アクティブラーニングにつなげることが大切だと教えていただきました。その後、歌舞伎「勧進帳」を視聴しましたが、全編視聴が初めての先生方も多く、大変有意義な時間でした。

午後からは「音楽科」の視点だけでなく、他教科の要素も踏まえた、教科横断型の観点で「総合芸術」として取り上げるか等、各グループで授業展開を考え、研修を深めました。

